



特集

節電の夏 2012

いよいよ夏本番！エアコンや冷蔵庫など暑さをしのぎ、私たちの暮らしを快適にする電化製品が大活躍する季節になりました。

しかし、皆さんもご存じのとおり震災などの影響で供給電力は昨年よりも厳しい状況です。

みんなで協力し、限られた電力を上手に消費することで、電力不足が予想される今年の夏を乗り切りましょう！

●問合せ先 市民生活課生活環境係



今年の夏は「節電」が大切です！

「節電」という言葉はここ数年でよく耳にするようになりました。本来は、限りあるエネルギー資源を大切に活用し、地球温暖化といった環境破壊の防止策の一つとして取り組まれてきましたが、平成23年3月に発生した東日本大震災を機に、「節電」への取り組みは、さらにその重要度が高まっています。

「節電」が暮らしを救う

私たちの身の回りを少し見渡してみただけでも、暮らしを便利にするたくさんの電化製品があることに気が付きます。現代の生活において、電力は欠かせないものであり、安定した電力の供給は、快適な生活を維持する要因の一つとなっています。

しかし、昨年3月の東日本大震災を機にわたしたちの暮らしを支えてきた電力の供給に大きな変化が起きました。この震災の影響を受け、国内では原子力発電の安全性が疑問視されるようになり、全国の原子力発電所は次々に運転を停止していきましました。代替となる火力発電所の燃料調達や補修時期の調整、長期停止中の火力発電所の再稼働、電力会社社間における応援融通のための送受電など、電力の供給力確保に向けた取り組みが行われていますが、電力不

効果的に節電しよう

節電は地球温暖化防止対策の一つでもあることから、長期的な取り組みが必要となります。

多くの電力を消費する工場や事業所、商業施設といった一部の範囲に集中して節電を求めた場合、一時的には効果があつたとしても、それが長期化することによって、経済に悪い影響を及ぼす可能性があります。

また、医療や福祉の分野における節電への取り組みは、その事業の性質から過度にならないよう、注意しなければなりません。

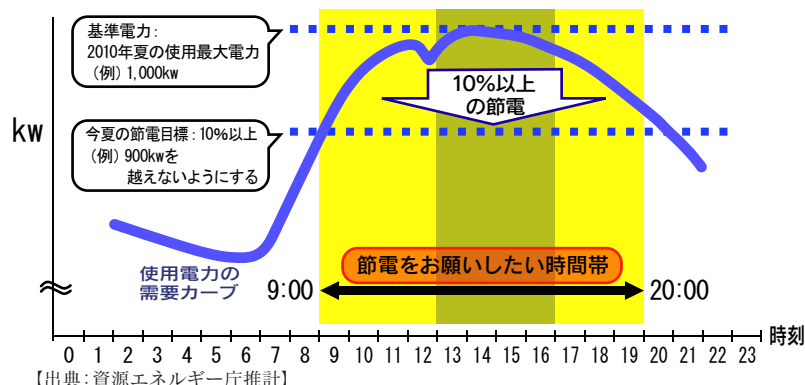
無理のない節電を続けていくためにも、社会全体として取り組むことが大切です。

さらに今年の夏は、東日本大震災の影響による電力不足が予想されます。この場合は、節電の実施時期が重要となります。

今年の夏の予想では、消費電力のピーク期間を7月2日から9月7日（8月13日、15日を除く）までとし、下図のようにピーク時間帯を平日の午前9時から午後8時までとしています。特に午後1時から午後5時にかけて消費電力が一日の最大になる傾向があります。

言い換えると、前記の期間・時間帯

需用は、平日の日中(13:00~17:00)頃に最大ピークとなる傾向にあるため、この時間帯の節電が特に重要です。



が電力不足になりやすい時期ということになります。節電を実施する場合は、この時期に集中して取り組むことが、より効果的・効果的な節電ということになります。

大規模な停電や、計画停電が実施されると、日常生活に大きな影響が生じます。今年の夏も暑くなることから予想されます。熱中症などに気が付け無理のない範囲で、できることから確実に節電へ取り組む…その意識と行動が求められています。